

『「命こそ宝」の叫びを心に刻んで』

吉田真司

本日6月23日は沖縄の「慰霊の日」です。中国大陸や南方諸地域に侵略して行く形で戦争をしてきた日本で唯一例外的に地上戦闘を体験したのが沖縄でした。当時、沖縄本島に住んでいた50万といわれる人々の内10万から15万の人々が戦争の中で殺されていったと聞きます。沖縄戦というのはただ4月から6月で終わったのではなく、日本軍の最高司令官が自決したのが6月23日であったこと、いちおうそこで沖縄戦は終了したと言われるのであって、それ以後も戦争が終わったことを知らないであちらこちらに潜みながら戦争を続けていた兵隊たち、あるいは一般市民もいたと聞きます。

なぜ沖縄がそのような激しい戦場になったのか、それは第二次大戦の末期の状態の中で沖縄は日米両軍にとって軍事的に重要な拠点であったからに他なりません。アメリカにとっては日本本土を攻略するため、日本にとっては本土を防衛するため、国体を守るための拠点だったのです。そこで一般市民を巻き込み、兵隊の死者よりも一般市民の死者の方が遙かに多いというような状況の中で戦闘が行われたのでした。そうして6月23日から二ヶ月足らずのうちに、日本はアメリカ軍を中心とする連合軍に無条件降伏しました。1945年8月15日のことです。

今回、『沖縄問題とキリスト者の責任』(聖燈社)という本を読みました。「沖縄問題は、未だ解決されていない。・・・今なお直面している問題である」(あとがき)とありました。先日の沖縄県議会選挙の結果は知られているとおりです。辺野古への基地建設計画が推し進められる危惧を覚えます。それは、かつてそうであったように、沖縄を本土防衛の拠点として、ますます武力化していくことに他なりません。そうして成り立つ平和とは、沖縄の人々の犠牲の上に成り立つ平和主義とは何なのでしょう。上掲の書はこうも指摘しています。「平和憲法には確かに平和主義があり、民主主義があり、人権擁護という思想があったとは言っても、第二次大戦で最も大きな被害を被った沖縄の平和への欲求、願望というものはいったいどこへ行ったのだろうか。・・・私たちはそのことを、厳しく問い返してみなければならない。」

教会の定例集会

主日礼拝	日曜日	午前 9:00~10:00 (相模原礼拝)
		午前10:40~12:00 (会堂礼拝)
教会学校	日曜日	午前 9:30~10:20
(嬰兒、幼児、小学生、中高生、		青年、成人、英語、聖書入門の各クラス)
祈り会	水曜日	午後 7:30~9:00
金曜集会	金曜日	午前10:30~12:00
家庭集会 (相模原)	第二火曜日	午前10:00~12:00 (竹村家)
(すずかけ台)	第三木曜日	午後 1:30~3:00 (長谷川家)

日本バプテスト相模中央キリスト教会

〒242-0007 大和市中央林間4-24-6 TEL&FAX046(274)3708

牧師：吉田真司 音楽・子どもユース担当主事：江原美歌子 協力牧師：斎藤剛毅

<http://www.sccc.sakura.ne.jp>